

第2学年3組 道徳学習指導案

平成28年10月28日(金)
江津中学校 2階ワークスペース
授業者 平儀野真理

1. 主題名 一生懸命生きる (D よりよく生きる喜び)
2. ねらい 一生懸命生きるということを考えることを通して、よりよい生き方をしようとする心情を育てる。
3. 資料 「ドコーン ドコーン」(出典 島根県教育委員会「しまねの道徳」)

4. 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

人は誰でも自分の中に弱さをもっているものである。そんな弱い心に流され、逃げてしまったり、自分の本当の思いとは違う言動をとったり、他者のせいにしてたりすることがある。しかし、このような心の揺れを受け止め、弱さを克服し、乗り越えようとするところに人間としての気高さやよさがある。新学習指導要領にある内容項目「よりよく生きる喜び」とは、多様な価値観の、時に対立がある場合も含めて、人間としてよりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢を持たせることであると考ええる。

中学生の年代は、いろいろなことに興味をもち感受性豊かな時期であり、自分の考え方や生き方、在り方を主体的に見つめ、自分自身の人生の課題や目標について考えはじめる時期ともいえる。それが故に、友だち関係に悩んだり、自分に自信が持てなくなったり、悩みのつきない時期でもある。また、自分の長所や短所をある程度まで自覚できるようになり、自分の弱さや人間としての弱さを素直に認めて受容できるようになる。

しかし、それをそのまま容認するのではなく、人間には自らの弱点や短所を克服して、自分の強みや長所をさらに伸ばし、よりよく生きることができるとくましさやすばらしさを理解させることが必要である。指導にあたっては、自分自身が人間としてよりよく生きていく上で「一生懸命生きる」ことの意味を自分なりに発展させていくことへの思いや課題に気づかせ、自分の将来に夢や希望がもてるような授業展開を心がけたい。

(2) 生徒の実態について

…<個人情報保護のため省略>…

(3) 資料について

本資料は、主人公が、和太鼓奏者の今福優さんとの出会いによって、心を動かされていくという作品である。中学1年生の主人公は、周囲の目を気にして思い切り太鼓をたたくことができない。そんな時、今福さんの太鼓や熱い生き方に触れ、自分を奮い立たせて弱さに打ち勝ち、最後には力いっぱい太鼓をたたく主人公の姿が描かれている。

本校では、「特別の教科道徳」の完全実施に向け、昨年度から「生徒の道徳性を育む」ことを目標に「考え、議論する」道徳の授業に取り組んできた。本時は、前述の通り、本資料の「一生懸命生きる」という価値観を、表面的に捉えて終わることのないよう、各グループに一人ずつ地域の方に入っただき、考えを深める学習となることを期待している。生徒とともに考え、ときには豊富な経験を活かし人生の先輩として話をしてもらう中で、生徒が自分を見つめ、広い視野から多面的・多角的に考えることで主題に迫ることができると思う。そして、誰しも弱さをもっていることを理解し、それでもよりよく生きていく意義を考え、自分の今後の生き方を見つめる一助としたい。

5. 展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	○自分たちのこれまでの経験を振り返る。	○「今までに、自分はやりたいけれど、周りのことを考えてできなかった経験はありませんか。心の中で考えてみましょう。」	・自分に弱さがあると感じることで、「僕」に共感させたい。
展開	○資料「ドコーン ドコーン」を読む。 ○『僕』の心情変化のきっかけを考える。 ○班で意見を伝え合う。 ○各班の話合いを共有する。	○「この話を読んで、どう思いましたか。」 ・今福さんはすごい。 ・僕が太鼓をたたけて良かった。 ・僕の気持ちもわかる。 ・変わったのはすごい。 ○「『僕』の気持ちを変化させたきっかけは何だろう。」 ・太鼓 ・今福さんの言葉 ・一生懸命生きている今福さんの生き方 ◎「あなたにとって、一生懸命生きるとはどういうことだろうか。」 ・諦めずに最後までやり抜くこと。 ・自分の思いを大切に生きること。	・意見が出なければ、「僕」についてもふれるように促す。 ・「僕」の前半での気持ちに改めて、目を向けさせる。 ・生徒の発言をもとに、今福さんのどんな言葉や生き方が影響を与えたのかまで考えさせる。 ・自分の弱さに気づいたことがないか振り返るように声がけをする。 ・話合いをしやすくするため、ノートやホワイトボードをメモとして利用する。 ・全員が思いを話せるよう、声かけや時間配分をする。
終末	○今福さんのビデオメッセージを視聴する。 ○授業の振り返りを書く。	○「今日考えたこと・今後に活かしたいことを書きましょう。」	

6. 評価

- ・ねらいに迫るための発問は適切であったか。
- ・地域の方の参加、ビデオメッセージは効果的な活用方法であったか。